

## 政務活動先進事例調査報告書

報告者：宍志の会

下記のとおり、先例事例調査を行いましたので、宍粟市議会政務活動費の用途に関する要領第6（7）の規定により報告します。

## 記

1. 視察年月日 平成30年2月1日（木）
2. 視 察 先 広島県東広島市河内町小田  
自治組織「共和の郷小田」
3. 出席委員 今井和夫、大久保陽一、宮元裕祐、津田晃伸
4. 事 務 局
5. 視察先又は研修先基本情報

広島県のほぼ中央、標高280m。棚状に開けた耕地の中山間地。旧小田小学校校区。

集落数 13集落

戸数 213戸

人口 600人

高齢化率 49.2%

農家戸数 159戸（ほとんど兼業）

耕地面積 110ha（1戸平均70a）

地域特産 米、小麦、大豆、そば、みそ、野菜、西条柿

H22年頃より若い13世帯が移住定着している。

約50名増加し、現在は人口減少は全体で横ばい傾向

## 6. 調査概要

調 査 先	自治組織「共和の郷・小田」	場 所	広島県東広島市河内町小田
調 査 目 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自治組織の成り立ち、今後の展望等</li> <li>・ 農事組合法人の設立過程や今後の課題等</li> </ul>		
実 施 日	平成30年2月1日（木） 午前10時00分～午前12時00分		
対 応 者 職 名	■■■■ 会長、■■■■ 事務局長		
主 な 質 疑 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共和の郷小田成立の経緯・苦勞</li> <li>・ なぜ、これだけの自治組織ができあがったのか。</li> <li>・ 住民が出ることが多いようだが、そのあたりの住民の意識。</li> <li>・ 次世代に担う者が育っているか</li> <li>・ ファーム・おだの経営、また、獣害対策について</li> </ul>		

調査結果

自治組織「共和の郷小田」

● 地域崩壊の危機

H. 10年頃より小学校（H16年廃校）・幼稚園・診療所の廃止の動き  
平成の大合併（H17年）で河内町小田は東広島市に編入合併。中心地から一番遠い過疎地域となる。

→ 危機をチャンスに

小田地域を代表して行政に要望できる組織が必要となる。

・自分たちの地域は自分たちで守っていこう。自分たちでできることは汗を流して実行しよう。

・自分たちでできないことは、どうしたら解決できるかを考え、計画を立てて行政に提案し、地域を守っていこう。

↓

「共和塾」を作って研究（元町長、元町会議員、元教育長、元県職員・・・）

H10年 13集落で延べ33回の話し合い

H15年「自治組織 共和の郷小田」設立

● 当初 5部会で発足

企画総務部、農村振興部、文化教育部、環境福祉部、体育健康部  
13名の役員が執行部となってほとんどの活動を計画  
既存の組織（区長会、女性会、老人会、等）はそのまま残る。

● H17年 小田ファーム 設立

農村振興部が母体となり延べ50回の会合をして立ち上げる

● H24年 組織再編成

東広島市がH22年に、自治会長手当等をなくし、全地域に住民自治協議会を作り、そこに助成をし、行政も参加する住民自治組織作りを打ち出す。（人口18万人の市で47の自治組織）

H15年設立以来、役員のみならず手不足、マンネリ化等が出てきていたので、市の方針に従い、再編を検討する。

・既存組織（区長会、女性会、JA女性部、老人会・・・）を組み込む

・自治会長制度をなくす。（自治組織に組み込む。）

・部会を5つから8つに再編する

総務企画部、農村振興部、文化教育部、環境保全部、福祉ふれあい部、体育健康部、女性部、白龍部（老人会）

・・・小さな役場のような組織

・各組（隣保）から6人の役員を出してもらう。

→ 各部8名（女性部のみ11名）体制。 各役員すべて任期2年。

毎月3日に常会

・生涯学習センターの職員が事務局長を兼務（5年任期）、さらにセンター一長も事務局員として加わる。

● 広報誌の発行

毎月一回、事務局が企画総務部と一緒に作る。

事務局は大変だが、小田の人々の絆を強くする大きな働き

● 共和塾

「共和塾」とは、一番最初にこの自治組織を作るときに研究するグループとして作られた会だが、その後、この自治組織だけでは検討できない諸課題が出てくる度に、自治組織役員が中心となって、小田地区内外からその課題に詳しい人などを集めて作る研究・実行機関となっている。課題が解決すれば解散する非常に柔軟な会。自治組織の組織図には出てこないが、要所要所で牽引・調整役となっているように思われる。

● 現在の取り組み

・福祉カーの検討

車に乗れない高齢者の足として地域で車を走らせることを検討している。ボランティアの運転手4人確保。事務局が間を取って、週3回の運行を計画中。

・ゆずの里づくり

・小田のビジョン「未来創生図」の作成

役員は交代するので、10年後の将来像として、継続して取り組んでいく課題として77のテーマを出した。

農事組合法人 ファーム・おだ

● 経営面積 103ha 組合農家戸数 154戸 (95%加入) (1戸平均70a)

● 水張り86ha。 転作率38%

・水稲47ha、・大豆18ha、・小麦9ha、酒米4ha、そば2.7ha、

野菜1.5ha (広島菜1ha、レタス、ネギ、アスパラ、トマト、ナンキン、トウモロコシ、甘藷、他)

・米粉用米2.2ha・飼料米9.8ha

● 獣害対策

・ H26年以降、点検を始めてから獣害ほぼゼロ。

今まで多いときは96万円くらいの被害額だった。

・ 総延長24km。小田集落全部を囲う。

・ 下1mワイヤーメッシュ、その上1mアルミの有刺線

・ 2人一組、4人(2組)で週一回、12kmずつ点検する。あと二人は予備で6人で交替して点検。

・ 4月～10月(7ヶ月間)それ以外の期間は、基本的には猟師にまかせる。

・ 簡単な補修は見回りながら直すが、時間のかかるものは、担当隣保に連絡するだけ。あとは担当隣保が直す。

・ 時給1,000円。日当8,000円。 年間1人45万円×6人=270万円

・ 道路に面したところは、柵の端から道路に沿って50mくらい同様の柵をする。

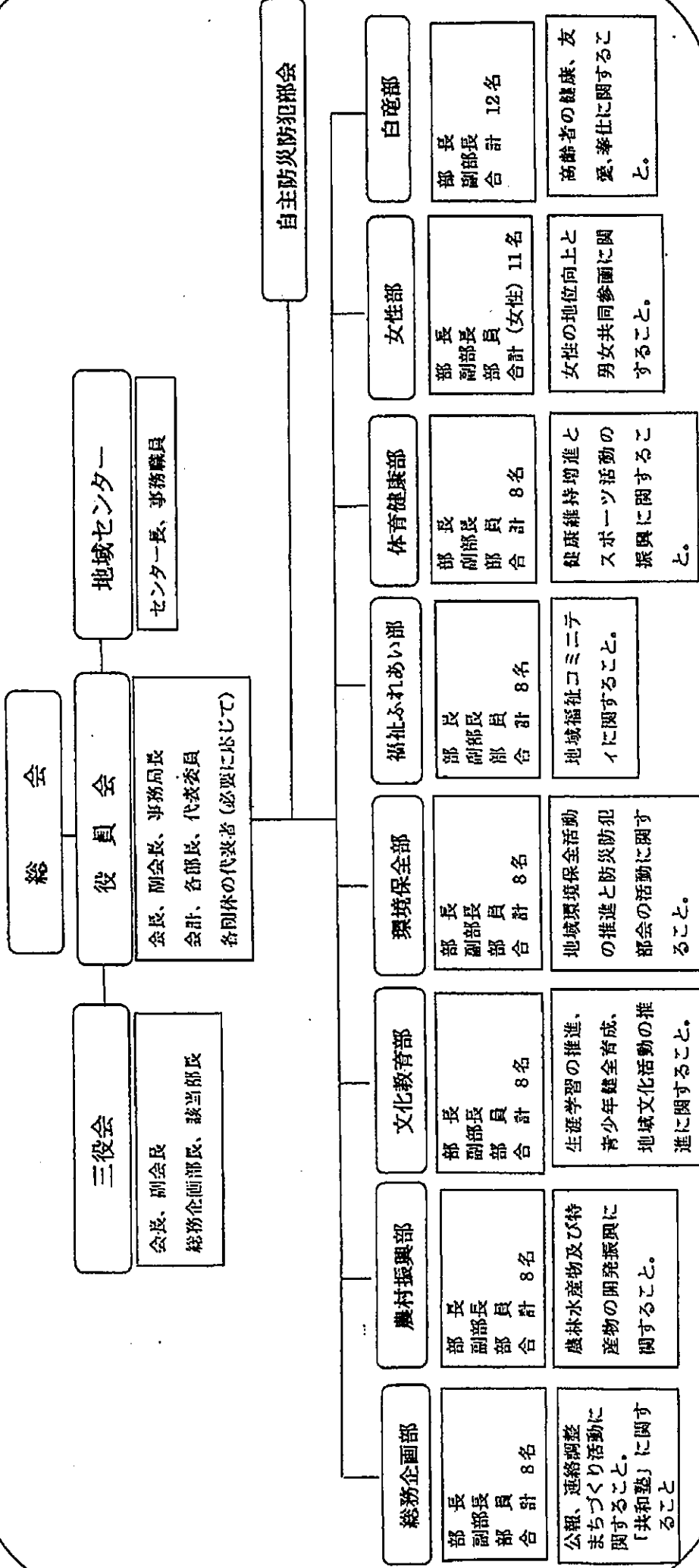
・ 柵の外にわなを設置。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 隣保に柵の維持管理費（草刈り賃）として、1mあたり160円支給。 柵の幅2mずつくらいは草刈りするのは隣保の役目。年2回くらいの草刈り賃は出る。草刈りのややこしいところは除草剤散布。</li> <li>・ 中に獣が入り込んだときは、猟友会に言って犬で追い払ってもらおう。</li> <li>・ 地域の方は「野菜や家庭菜園が本当に作りやすくなった」と非常に喜ばれている。</li> <li>● 地主の負担 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最初の出資金 加入するときだけ 10aあたり1万円+1軒1万円（例 1haなら11万円）</li> <li>・ あとはもらうだけ <ul style="list-style-type: none"> <li>地代として 1万円/10a</li> <li>水管理費 2,000円/10a</li> <li>畦草刈り賃 1万円/10a</li> </ul> </li> <li>（H30年から反当ではなく畦畔の面積に比例して配分する）</li> <li>・ 食べる米はファーム小田に注文して購入する（外売りと同じ価格で）</li> </ul> </li> <li>● 法人の収入 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 米の販売価格 30kg8,500円。業者が大半、直売もある。</li> <li>・ それだけでは経営できないので野菜や加工（米粉パン、味噌等）をする。</li> <li>・ 中山間地支払 2,300万円（4割個人配分） （獣害対策に約500万円）</li> </ul> </li> <li>● 雇用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 60歳以下の雇用 15名（米粉パン工房も含む） （20代2人、30代3人、40代5人、50代5人）</li> <li>・ 手取り月20万円程度（年額250万円くらい）</li> <li>・ 半分地元、半分外から通い。</li> </ul> </li> <li>● 栽培技術の向上対策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大豆の除草・米粉用飼料米用多収品種開発・直まきの研究・</li> </ul> </li> <li>● 今後の課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>畦の草刈りができなくなる人が増えてくる。</li> <li>・ 若い人で「草刈り隊」を結成。アルバイトとしてやってもらう。</li> <li>・ 草刈りロボットの購入の検討。ラジコンは若い人は操縦がうまい。 ドイツ製580万円、（日本製はまだ性能が悪い）</li> <li>・ 畦畔太陽光発電シートを試行している。</li> </ul> </li> </ul>
<p>調査先の現状における課題</p>	<p>共和の郷小田</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取り組みの継続 若い世代をどう取り込むか</li> </ul> <p>ファーム・おだ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生産者の高齢化</li> </ul>

考 察	<p>(宍粟市での実施の可能性や問題点などを考察する)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小田地区は昔から盆地の中に一つある集落、一小学校一自治会とまとまりがよりあったのだろう。それだけではなく、そこに公民館職員が2人配置されている、東広島市の中でも珍しいケース。そして、その職員の仕事に「自治組織の運営を助ける」というのが、しっかりと位置づけられている。だから、これだけのことができるのだろう。       <p style="margin-left: 2em;">ボランティアで「福祉タクシー」を作ること、月一回の広報を出すこと、様々なイベント、その他すべてにおいて、職員としての事務局がなければ成り立っていない。</p> </li> <li>・ 自治組織の各部が中心で企画するが、実行は全戸で。これが実現できているところがすごい。       <p style="margin-left: 2em;">また、歩道をつける時の用地交渉、あるいは、空き家を借りるときの交渉など、住民が自らするのでことが進んでいくというところは非常に考えさせられる。</p> </li> <li>・ 宍粟市においても、旧町、旧小学校区、旧村単位くらいでの自治の再構築が必要と思われる。「自分たちの地域は自分たちで作る。自分たちでできることは自分たちです。自分たちでできないことは行政に要望する。」そういう自分たちで考え・作る『自治』の再構築が必要である。</li> <li>・ そのためには、小田地区、あるいは、東広島市同様、行政職員が事務局としてしっかり関わることが不可欠と思われる。「住民が自発的にやってくれ」では、現実には進まない。各地域の自治を作っていくのも行政の大きな仕事ではないだろうか。       <p style="margin-left: 2em;">「始めだけ手伝うからあとは自分たちでやってくれ」いつからか宍粟市はそのような手法が一般的となっているように思われるが、それでうまくいっているだろうか。</p> </li> <li>・ 放っておけばこれからますます過疎が進むこの町において、やはり、このような行政主導の「おらが村」づくりをしていくことが、過疎を食い止める非常に大きな要素ではないかと考えます。</li> <li>・ ファーム・おだ の獣害対策は、是非検討していく価値があると思われるので、各農会・自治会等へ一度紹介してみてもどうだろうか。あるいは、来て話をしてもらっても良いのではないか。そして、宍粟市ではどうすれば実現できるかを検討すべきである。</li> <li>・ 除草ロボット、畦畔太陽光発電シートは、宍粟市も検討すべき。</li> </ul>
-----	--

◎「共和の郷・おだ」組織図

# 共和の郷・おだ



※地域の各種団体は、活動に応じて各部会（行事）に参加する。

- 第八方面体河内北分団 農業委員 民生児童委員 河内西小学校 PTA 河内西小学校体育振興会 スポーツ推進委員 (農) フォーム・おだ
- 小田神楽団 河内交流促進施設運営協議会 河内福祉を進める会 V 連絡協議会 市文化連盟河内支部 青少年育成市民会議 母子保健推進員 農
- 区長 市交通安全協会河内支部 市公衆衛生推進協議会河内支部 共同募金 観光協会 わくわくスポーツランド河内 なかよし会 みんなみんぜミ
- BONスター ほか地域行事へ賛同する団体

## 7. 参加者の所感

### 【今井和夫】

昔から1自治会1小学校でまとまりがあり、約210戸の集落に2人の職員が配置されているという、非常に恵まれた、特異なケースであるが、それでないとなのような自治体制が作れないのならば、なんとかできないか検討する必要があるだろう。

13軒のUターン者が生まれていることはすごい。働き口として、米粉パン工房を作ったり努力されている、また、鉄道で1時間で広島市へ行けるところが強みか。

役員は二年交替。それは徹底している。役員が替わってもすることが継続するように、「小田ビジョン」を作っている。2年後、4年後、6年後、8年後、10年後にしておくことを77項目(7分類)あげている。その夢に向かって町民みんなで取り組もうとしているところが強い。

### 【大久保陽一】

宍粟市では、巡回バス(しーたんバス)と介護タクシーなど高齢者の交通手段が確立されつつある。「おだ福祉カー」を運転ボランティアで計画されている。ボランティアで、可能なのかも含めて「共和の郷小田」の今後の取り組みに注目していきたい。

また、小田地区の獣害対策は私の発想に無い取り組みであり、驚かされた。成功事例として、宍粟市においても可能かどうかを検証すべきだと感じた。

### 【宮元裕祐】

少子高齢化地域において、その地域に住む人が総力で計画作りをして自分たちができる範囲で地域づくりを推進している。

また、地域の農地の集約化を推進し、住民が農地の担い手となり管理もし、その付加価値で農産物の販売や加工品などを開発し、さらに米粉パンを製造販売して6次産業を推進している。

### 【津田晃伸】

過疎地域の理想型だと感じました。

ただ10年後を見据えたときに、今いる若者が、今後どこまで本気になり地域の存続を考え行動に移すか。そして、そのような若者・子供たちを地域全体でどの様に育てていくのが宍粟市にも共通する大きな課題であると感じました。

しかし、現段階での取り組みとして発信し、外貨を稼ぐ手法は参考にしないといけない点もあると感じます。

8. 視察研修の状況



共和の郷：小田



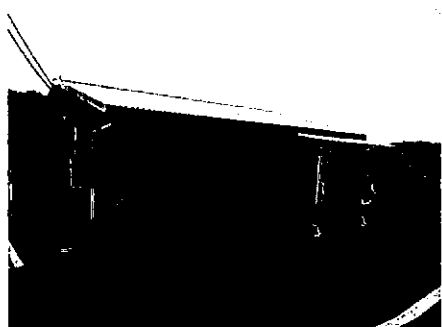
共和の郷：小田



共和の郷小田：寄りん菜屋



共和の郷小田：寄りん菜屋



共和の郷小田：パン&マイム



共和の郷小田：パン&マイム



## 政務活動先進事例調査報告書

報告者：宍志の会

下記のとおり、先例事例調査を行いましたので、宍粟市議会政務活動費の使途に関する要領第6（7）の規定により報告します。

## 記

1. 視察年月日 平成30年1月31日（水）～ 2月1日（木）
2. 視察先 広島県世羅郡世羅町
3. 出席委員 今井和夫、大久保陽一、宮元裕祐、津田晃伸
4. 事務局
5. 視察先又は研修先基本情報

		宍粟市	世羅町
概要	平成30年1月末日人口(人)	38,566	16,553
	平成30年1月世帯数	14,605	6,891
	面積(Km <sup>2</sup> )	658.54	278.14
	合併年月日等	H17.4.1 4町	H16.10.1. 3町
H27年度 財政指標	標準財政規模(千円)	15,487,438	8,024,826
	財政力指数	0.36	0.32
	経常収支比率(%)	90.0	84.9
	実質公債費比率(%)	15.0	9.7
議会概要	議員数(人)	16	14
	議長月額報酬(千円)	448	280
	副議長月額報酬(千円)	370	231
	議員月額報酬(千円)	346	210
	政務活動費(年額)(千円)	180	0
議会基本条例制定時期		H23.3.25	H27.12.17.

※ 視察先が地方自治体以外の場合は、上記の表は用いず当該機関の概要を記載する。

6. 調査概要

調査先	世羅町	場所	広島県世羅郡世羅町																																										
調査目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世羅町長と面談し、町政を進めて行くうえでの方針や具体的施策を聞く。</li> <li>・ 先進的な集落営農・営農組織の法人化について調査する。</li> </ul>																																												
実施日	平成 30 年 1 月 31 日 (水) 午後 4 時 00 分～午後 6 時 00 分																																												
対応者職名	世羅町長 ████████ 氏																																												
主な質疑等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世羅町の農業への取り組みの代表的な施策。</li> <li>・ 若者流出防止。また、UJI ターンへの取り組み。</li> </ul>																																												
調査結果	<p>● 人口 16,337 人 (2015 年) 1980 年 22,483 人 65 歳以上 39.9% (宍粟市 33.1%) 14 歳以下 10.8% (宍粟市 11.7%) 宍粟市北部と同様の人口形態か。</p> <p>● 農業の状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>世羅町</th> <th>宍粟市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人口</td> <td>16,584</td> <td>38,666</td> </tr> <tr> <td>総世帯数</td> <td>6,890</td> <td>14,607</td> </tr> <tr> <td>総農家数</td> <td>2,088</td> <td>3,274</td> </tr> <tr> <td>自給的農家数</td> <td>612</td> <td>1,778</td> </tr> <tr> <td>販売農家数</td> <td>1,476</td> <td>1,496</td> </tr> <tr> <td>専業農家数</td> <td>458</td> <td>247</td> </tr> <tr> <td>15-64 歳のいる専業農家数</td> <td>137</td> <td>59</td> </tr> <tr> <td>第一種兼業農家数</td> <td>133</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>第二種兼業農家数</td> <td>885</td> <td>1,191</td> </tr> <tr> <td>専業農家/総農家数 (%)</td> <td>21.9</td> <td>7.5</td> </tr> <tr> <td>生産年齢専業農家/総農家 (%)</td> <td>6.6</td> <td>1.8</td> </tr> <tr> <td>販売農家数/総農家数 (%)</td> <td>70.7</td> <td>45.7</td> </tr> <tr> <td>自給的農家数/総農家数 (%)</td> <td>29.3</td> <td>54.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>※人口・世帯数は H29 年 12 月末現在 ※農家数以下は、2015 年農林業センサスほかより</p> <p>① 世羅町の農業生産額 122 億円 (広島県第 2 位)  <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1980 年に比べて約 1.4 倍に伸びている</li> <li>・ その中でも 70 億円以上が畜産である。1980 年は約 40 億円なので約 1.8 倍に増えている。内訳は養鶏業が主のようだ。逆に米は約 6 割に減っている。</li> </ul> </p> <p>② 集落法人が町内水田面積の 3 割以上を集積  H11 年 1 団体 → H27 年 38 団体 (広島県最多)</p>				世羅町	宍粟市	人口	16,584	38,666	総世帯数	6,890	14,607	総農家数	2,088	3,274	自給的農家数	612	1,778	販売農家数	1,476	1,496	専業農家数	458	247	15-64 歳のいる専業農家数	137	59	第一種兼業農家数	133	58	第二種兼業農家数	885	1,191	専業農家/総農家数 (%)	21.9	7.5	生産年齢専業農家/総農家 (%)	6.6	1.8	販売農家数/総農家数 (%)	70.7	45.7	自給的農家数/総農家数 (%)	29.3	54.3
	世羅町	宍粟市																																											
人口	16,584	38,666																																											
総世帯数	6,890	14,607																																											
総農家数	2,088	3,274																																											
自給的農家数	612	1,778																																											
販売農家数	1,476	1,496																																											
専業農家数	458	247																																											
15-64 歳のいる専業農家数	137	59																																											
第一種兼業農家数	133	58																																											
第二種兼業農家数	885	1,191																																											
専業農家/総農家数 (%)	21.9	7.5																																											
生産年齢専業農家/総農家 (%)	6.6	1.8																																											
販売農家数/総農家数 (%)	70.7	45.7																																											
自給的農家数/総農家数 (%)	29.3	54.3																																											

販売農家が減少する中、10ha以上を経営する法人は増加。  
中には所得500万円以上の雇用者・農業者を30人確保する法人もある。

③ 世羅高原6次産業化ネットワーク

- ・ 1999年 設立 当初32団体 現在 75団体 (約1,400人)
- ・ 販売方法の研修、加工品の開発、野菜栽培振興、試食会、まつり。
- ・ 2009年「日本一大きく美しく豊かな農村公園プラン」を作成して町長に提案。
- ・ 新しくできた道の駅でも、町内で作られた加工品等がたくさんあり、驚いたが、この6次産業化に対しての町の具体的な支援策について再調査の必要あり。

④ 世羅ブランドの取り組み

ブランドにするポイント

- ・ 最高級品であること
- ・ 世羅町らしいものであること

認証を取るには「世羅ブランド農産物研究会」に入ること。

「世羅ブランド認証委員会」で認証

当面は指定する販路(広島市の百貨店等)のみの販売。厳選感を出すため。

「世羅町担い手育成協議会」

県農林水産事務所、農業技術指導所、JA、世羅町で構成

「世羅ブランド戦略会議」

等、様々な機関が作られ関わっている。

● 保育所・認定こども園 保育料半額補助

同時利用の場合は 二人目は1/4、三人目は0円。

● 定住促進施策

① リフォーム補助

費用の1/10。(上限 一般30万円、3世代同居50万円)

3世代同居を勧めている

② 移住者の新築、建売購入、空き家購入・リフォームに最大100万円補助

③ 水道のない地域ではボーリング費用の1/2助成

④ 定住促進アドバイザーを置いている 空き家バンクはいつも足りない、移住希望者が多い。

● 教育

① 「世羅の教育」として有名らしい。規律ある行動様式を自分たちでやっている。

② 全中学1年生に広島大学での学生生活を一日体験させる。

→ ハイレベルの教育環境を体験させ目標を高く持たせる。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>③ 陸上競技場を任期中に作りたい</li> <li>④ 給食費を無料にすると、質が落ちるからしない方がよい。</li> </ul>
調査先の現状における課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世羅町の大きな課題としては、主力産業の農業、加工業等の担い手の高齢化、また、担い手不足らしい。町をあげて取り組んでいてもなかなか難しい現状なようだ。</li> </ul>
考察	<p>(宍粟市での実施の可能性や問題点などを考察する)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町長が自分の町の素晴らしさを誇らしげに次々と語る、その姿に感動した。特に、高校駅伝の世羅高校、農作物や加工品の世羅ブランド、移住希望者が多い等々。町民全体が誇りを感じてこの町に住まれているのではと思えるような町長の話し方だった。我々も宍粟市のことを誇りを持って話せるだろうか。そうなるように努力しなければいけない。</li> <li>・ 宍粟市は自給的農家が半分以上に対し、世羅町は販売農家が7割を越えている。特に、専業農家、それも64歳以下の者がいる専業農家が宍粟市に比べて3.6倍の率が多い。</li> <li>・ 「世羅高原6次産業化ネットワーク」が確立され、町を挙げて取り組む姿勢が強く感じられた。「世羅道の駅」では、100%地元産の物しか置いていない。こんな道の駅は始めて見た。 宍粟市においても、各所で様々な取り組みがなされているが、互いの連絡・連携や行政のしっかりした支援策等が不十分ではないか。とにかく、一度関係者が集まってみる必要があるのではないだろうか。</li> <li>・ 「生産者の高齢化」は同様の課題。それに対しての対策はまだハッキリとは出ていない。これは全国どこも同様な様子で、宍粟市でも同様だ。新規就農者への支援も実施しているが、根本的な農業への支援策が必要である。</li> <li>・ 耕作放棄地を作らないために、農地の集約化、集落営農・法人化が非常に進んでいる。若者を雇用する法人も見られるのでそのあたりの経営状況については、さらに調査する必要がある。</li> </ul>

## 7. 参加者の所感

【今井和夫】

町長が自分の町に誇りを持って語る姿勢が印象的だった。「広島県内でも、全国的にもこの町のこの部分は優れている」そんな自信がいくつも出てきた。それは、ブランド品や教育や、何においてもトップをめざす、目標を高く持つ姿勢につながっている。

また、一番驚いたのは「道の駅世羅」。みごとに町内産のものしか置いていなかった。こんな道の駅は初めて見た。一般の大きな道の駅に比べれば置いてあるものは少ないが、町内産だけであれだけの数が揃えられることは驚き。六次産業化が進んでいる証し。

世羅ワイナリー、6次産業化ネットワーク、観光農園（花・果樹）、農家民宿、世羅高校、・・・等の連携がしっかりできているのがうかがえた。

#### 【大久保陽一】

世羅町で進む六次産業化の流れは、宍粟市の現状と大きく違っている。世羅町で作られた農産物の加工品が道の駅などで多く販売されていた。農産物からつくられた多くの独自商品並びに販売方法（道の駅）など見習うべきものがあった。

世羅町の社会教育・子育て支援に関しては、公民館・児童館がないなど、宍粟市同様の課題だと感じた。

世羅町の実質公債費比率は黄色信号、経常収支比率も良くない、人口減少も宍粟市と同様に進む世羅町に置いて、陸上競技場建設に際して、世羅町独自の持ち出し金額が気になる。国県や他の補助金などどれだけ市外のお金を集めてくるのか？世羅町公務員の力量を拜見したい。今後の世羅町に注目していきたい。

#### 【宮元裕祐】

高校駅伝の常連校世羅高校を誇りとし、それをまちの活性化とし、町民が誇りにしている。

高齢化により農地の放棄田や休耕田など荒廃しないように、そうなる前に農地を集約し農業法人設立を推進し10年20年先を見据えた農業政策に取り組み整備された農村風景が維持されている。

花やブドウや農作物による6次産業を育てるために、行政が積極的に農政のリーダーとなって生産や加工した農産物などを販売する道の駅を観光協会が運営し行政の関わりがしっかりしている。

観光農園・果樹農園・産直市場・農畜産物加工グループなどの70を超える団体を行政が支援し、その団体をまとめ上げ、元気に活動されています。

#### 【津田晃伸】

世羅町及びトップの営業力を非常に感じる時間でした。さらに自分の街をこうしたい。強いリーダーシップを感じました。

我々議員及び市長は市外に対し、どのように自分の住む街を宣伝していけばいいのだろう。やはり、他の市に負けない何かウリに出来るものを宍粟市にも創っていないといけないと強く感じる時間でした。

また、公立病院にドクターがむこうからやってくる。それだけ、外部への宣伝が上手いのか。それとも病院そのものの魅力か。或いはまちの魅力か。本市において、様々な角度からの分析が必要と感じました。

世羅町長の姿勢からは、宍粟市も市長及び議員がトップセールスを行って外貨を稼ぐ手法は見習わないといけない点がたくさん見えました。

8. 視察研修の状況



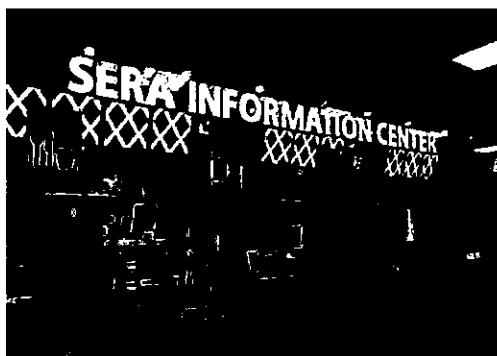
世羅町道の駅



世羅町道の駅



世羅町長との懇談



世羅町道の駅

平成 30 年 2 月 9 日

## 政務活動先進事例調査報告書

報告者：宍志の会

下記のとおり、先例事例調査を行いましたので、宍粟市議会政務活動費の使途に関する要領第 6 (7) の規定により報告します。

### 記

1. 視察年月日 平成 30 年 1 月 31 日 (水)
2. 視 察 先 有限会社 平田観光農園  
広島県三次市上田町 11740-3
3. 出席委員 今井和夫 大久保陽一 宮元裕祐 津田晃伸
4. 事 務 局
5. 視察先又は研修先基本情報  
会社設立 昭和 60 年 8 月 1 日  
事業内容 果樹栽培を中心とした観光農業及び農産加工、販売  
正社員 17 名 パート 6 名  
標高 550m 15ha、14 樹種 15 品目の果樹栽培  
いちご 60a さくらんぼ 55a プラム 30a プルーン 30a もも 10a ブルーベリー 10a  
ぶどう 150a リンゴ 160a 和なし 60a 西洋なし 45a いちじく 10a 栗 40a さつまい  
も 10a 花木類 350a  
年間 16 万人の観光客

### 6. 調査概要

調 査 先	有限会社 平田観光農園	場 所	広島県三次市上田町 11740-3
調 査 目 的	農村における雇用創出 農業の活性化 耕作放棄地対策		
実 施 日	平成 30 年 1 月 31 日 (水) 午前 11 時 30 分～午後 3 時 00 分		
対 応 者 職 名	会長 ████████ 氏、社長 ████████ 氏		
主 な 質 疑 等	・経営概要・留意点 ・今後に向けて考えていること		

調査結果

平田観光農園の経営概要・留意点

- 会社設立の目的は?
  - ・ 農業及び地域資源を活かした事業で田舎を元気にする。
  - ・ 若者が憧れる産業を、田舎で創造する。
  - ・ 地域の産業を担い、生きがいを持って働き、生活をエンジョイする若者を育てる。
  - ・ 中山間地域で儲かるしくみ作りを創造する。
  - ・ 地域の発展に貢献するしくみ作りを考える。
  - ・ サステイナブルな産業構造を創造する。
- 社員の行動基準
  - ① 誰にでも笑顔で元気よく挨拶する。相手に喜んでいただくことに専念する。
  - ② ゼロベースで考える。多くの選択肢からベストを選ぶ
  - ③ マイナス発言や後ろ向きな行動は慎む。
  - ④ 自ら先頭に立って行動する。ただし、任せるところは任せ、人材を育てる。
  - ⑤ 一秒でも早く行動を起こす。
  - ⑥ 約束・ルールは守る。嘘はつかない。
  - ⑦ 失敗は自己責任。失敗を糧に成長する。
  - ⑧ 先ず Yes 出来ないと言わない。
  - ⑨ ボトルネックを作らない。 → セクションの壁を作らない。
  - ⑩ いつも平常心で行動
- 四季を通じて新しい景観、癒やされる農園づくり
  - ・ くだもの体験型観光
  - ・ 美しい景観の維持
  - ・ 6Sの徹底（整理・整頓・清掃・清潔・躰・作法）
- 目的を達成するために
  - ・ 売価の自己決定
  - ・ 多種類周年栽培で気候の変動の影響を小さく抑える
  - ・ 経営を改善し発展継続させる若い人材を採用（常勤社員平均31歳）
  - ・ 発展の可能性は無限に
    - いちごディスカバリー、ちょうど狩り、ダッチオープン森の森、おでカフェ、
  - ・ 知らざれば存在なし → 営業・広報部門にもっとも力を入れた専門デザイナー1名入れる
    - HP、FB、SNS、情報誌、テレビ、ラジオ・・・
  - ・ 環境に配慮
    - 省エネ技術導入 木質ボイラー（杉・檜等の木材チップ）によるハウス暖房、薪ストーブ、太陽光発電、太陽熱温水器、地下水の利用・・・
  - ・ 整備・補修は可能な限り社員が行う。
    - 古民家解体移築→農家レストラン、ハウス建設、道の補修・・・
  - ・ 社員の夢を実現し生きがいを持って働ける快適な職場の創造



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意欲を重視した人事管理 能力給、フレックスタイム勤務、 職種及び樹種担当制 80%・協同作業 20% 将来担い手になりそうな者には手厚く 全体の調整はとるが基本は独立採算制。 (例) ぶどう園 社員 2 名、パート 4 名 で独立してやっている 加工場も持つ</li> <li>● 農業の担い手づくり <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園～中学校 農業・農村・職業体験 約 2,000 人/年</li> <li>・ 高校・大学・海外から研修生 約 1,000 人/年</li> <li>・ 就農希望者育成 約 200 人/年</li> <li>・ 一般農業者研修 約 50 団体/年</li> </ul> </li> <li>● 地域と一体となった活動 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1994 年 三次ワイナリー建設 ピオーネ畑 300 人の雇用</li> <li>・ 廃校を利用して農村体験施設運営 UI ターンにつながる活動</li> <li>・ 美術館建設</li> <li>・ 川西郷の駅建設 地域に店がなくなったのでファミリーマートと提携</li> </ul> </li> </ul>
<p>調査先の 現状における 課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 駐車場不足 → 道路渋滞 → 周辺住民からの苦情</li> <li>● 「地域農業・農地を守ることを考えて始めた」と言われたが、現状では、平田観光農園は非常に成功しているが、それで、まわりの農地も維持されるかと言えばそうはなっていない。(ワイナリーを作り、ぶどう畑を作ったことによる農地の維持はある。)また、雇用は作っているが、地元出身者は少ない。</li> </ul>
<p>考察</p>	<p>広大な土地がある宍粟市でも十分可能な事業。 ただ、宍粟市には、同じような経営者がいない。</p> <p>そこで、対策として、一案だが、平田観光農園に毎年 3～5 人の行政職員及び新卒等を研修に派遣してはどうか。経営ノウハウを学ばせてもらい、そして、宍粟市内での事業展開を行っていく。行政職員や新卒でなくても、宍粟市内で起業家を募り、市がバックアップし、研修制度を用いて、市内での起業を促すのもいいと考えます。</p> <p>先方も、興味を持っておられるようだったので、具体案を提示し、両社が winwin となるような計画を検討してみてもどうでしょう。</p> <p>いずれにせよ、今の宍粟市には、財源も知恵もあまりないので、今後、いかに外部の力を活用し、宍粟市に持ち込むかが非常に重要であると考えます。</p> <p>その際、コンサルを活用するにしても、こういう成功者にコンサルを依頼し、費用が掛かったとしても、最後まで手助けしてもらえらる関係を作っていくことが重要です。</p> <p>今回は、平田観光農園の例を挙げましたが、全国にはこのような成功農園等はたくさんあります。それを調べ、いかに宍粟市に引き込んでいくか。今まで</p>

	<p>の、ことなかれ主義を脱却し、起爆剤になるような事業を民間の知恵を借り、展開していくべきだと考えます。</p> <p>それには、我々議員も含め、行政職員一人一人がもっと視野を広げ、市長は強いリーダーシップを持ち、実行に移すことが大事です。</p> <p>今後は、楓香荘の建て替え等も検討段階に入っています。その際は、このような視点も取り入れ、今ある資源を最大限にまで活用できるように、全員で知恵を出し合っていくことが最重要課題であるにとらえます。</p>
--	---

## 7. 参加者の所感

### 【大久保陽一】

中山間地域で儲かるしくみ作りを可能にしていた。従業員全員が、将来の経営者候補となっており、働くことへのモチベーションが高い若者が多いように感じた。

地域マネジメント会社「株式会社 川西郷の駅」、このマイクロ店舗は宍粟市の将来に有効。中山間地域の商業施設（マイクロ店舗）として参考にし、研究すべきである。

### 【宮元裕祐】

農地を守る事により、環境・国土の保全が守れるという信念が経営の柱になり、地域に対する思いの強さが伝わりました。

観光農園は、多種多様な果樹を1年通して収穫できるようにし、観光客のリピート率を上げることに成功し、また1日の滞在時間を増やすためにレストランや自炊ができるようにかまども作り運営されています。

学生の研修受け入れや、中途採用も積極的に実施し、今後の農家の人材育成の為に何が必要かを考えて運営されています。

従業員の仕事に対する責任感ややる気を出すために、農業やその経営を任せている。

### 【津田晃伸】

宍粟市でも十分可能な事業。

平田観光農園に毎年3~5人の行政職員及び新卒等を研修に行かせ、宍粟市内での事業展開が出来るのでは？

平田観光農園の様な、成功事例を今後研究し、今後は宍粟市への誘致等を積極的に進めるべきかと感じました。

### 【今井和夫】

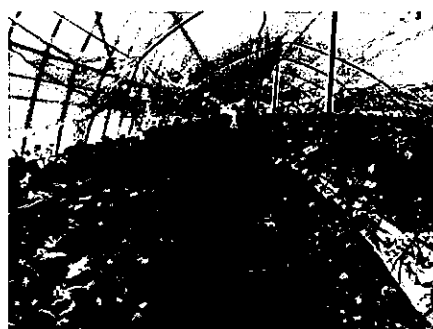
園内を分割して独立採算制など若い職員のやる気を引き出す運営方法をされていること。また、多種類の果樹を植え、年中、リピーターを維持しようとしていること。他にも若い職員の発想を斬新に取り入れていく経営スタイル。なかなか、学習すべき点は多いと感じました。特に、地方、地域、農地を守っていきたい。

また、子育てや、あるいは人間に取っての原点は「自然」であり、それに根ざした生き方が必要だという、会長のしっかりした信念が感動的で、それがあからこそ、商売としてもやっていけるのだろうと感じました。

8. 視察研修の状況



平田観光農園



平田観光農園



平田観光農園



平田観光農園